

1 自己評価及び外部評価票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070501057		
法人名	天理教飯田市分教会		
事業所名	グループホームいこいの里		
所在地	長野県飯田市羽場権現1611-2		
自己評価作成日	平成30年1月20日	評価結果市町村受理日	平成30年5月9日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.nsvakvo.or.jp/modules/general/general_divindex.php?iigvo=2070501057
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マズネットワーク		
所在地	長野県松本市巾上9-9		
訪問調査日	平成30年3月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念に添って、住み慣れた地域社会の中で、自立とふれあいを大切に、豊かで明るく健やかに暮らせる様に、高齢者の共同生活の場を提供し、入居する高齢者がその有する能力に応じて自立した日常生活がいとむこと出来るよう、支援、介護活動を行い共に「ようきぐらし」の出来る社会環境を作り出すことを目指しています。特に自分らしい生活をしながらも利用者同士が協調しあって暮らせるよう、職員一同介護技術の研鑽を重ねながら穏やかな雰囲気づくりを心がけています。当事業所は市内の高台に位置し大変眺めもよく周囲も自然に恵まれており、立地環境がそうした穏やかな雰囲気づくりに大いに役立っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

お互い助け合っよう気暮らしが出来ることを理念とし、利用者の持っている力を活かして自立した生活が出来るよう、生活リハビリを意識して支援している。利用者は穏やかで落ち着いた様子が見られ、掃除や「自分の服は自分で」と洗濯物を干したりたんだり自分の出来ることをやっている。思いのくみ取りでは「利用者は自分からは発信することが少ないので見つけに行く」という姿勢で利用者の思いをくみ取り、共有し、ケア計画の中に活かしている。計画は「食器洗いが出来る」など具体的で、利用者の出来る力を活かす現状に合ったものとなっている。事業所は高台にあるため眺めも良く、周りにリンゴ畑が広がり自然環境に恵まれ、地の利も良いため散歩も安心して出来、庭でのお茶などいつでも外に出て楽しむことが出来る。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名()		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる。 (参考項目: 23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目: 9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目: 18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目: 2, 20)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目: 38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目: 4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目: 36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目: 49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目: 30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目: 28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所は認知症高齢者の法令を理解し、事業所母体である宗教法人の「ようぐらし」「感謝、慎み、たすけあい」を理念としている。職員はこれを共有し、利用者、職員が共にたすけあい、なかよく暮らせるよう理念の実現に努めている。	理念は事業所内の目に付くところに掲示、職員会の中で確認し助け合ってチームで支援に取り組もうとしており、トラブルや問題が起こった時にはようぐらしが実現できるよう皆で話し合い、理念の実現に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎週地域のボランティアの方が来て絵手紙を教えてください。毎年地区の文化祭には作品を出展し、皆で見に行きます。運営推進会議を通して、地区のお祭りでは山車がホームの庭できおいをしてくださるようになった。	春と秋のお祭りや文化祭など地域の行事に参加することで、事業所が地域と馴染みの関係になってきている。祭りには子供神輿が寄ってくれたり、節分には鬼になった子供たちが寄ってくれるなど交流がある。絵手紙や掃除、歌やお菓子作りなどボランティアの方の協力がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	市内の中学校の福祉体験学習の受け入れを継続し、認知症や介護施設の事を知ってもらえる機会を作っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度、自治会、民生委員、老人会、ボランティア、地域包括支援センター、ご家族の方にご参加いただき開催しています。地域の催し、災害時の協力体制等アドバイスをいただいています。地域の方々にサポートしていただきサービスの向上につながるよう努めています。	委員の方とは協力体制が出来ており運営に関して提案をしてくれている。地域の情報交換や相談の中で、地域の行事への参加や中学校の職場体験の受け入れなどにつながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議等で地域包括支援センターの方と現況を話し相談しています。又必要に応じてその都度相談させて頂いています。	困難ケースについて等は常に地域包括支援センターと連絡を取り合い、担当者とは更新時や入退所など必要に応じて相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設内で勉強会を行い(資料の読み合わせや話し合い)身体拘束のないケアに努めています。玄関の施錠は夜間のみで、日中は施錠していません	拘束については常に意識し職員会で話し合い勉強会を行っている。転倒のリスクの高い利用者では低床ベッドを使用する等工夫し、ワンルームなので利用者の動きを見て見守り、拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	施設内で勉強会を行い(資料の読み合わせや話し合い)虐待について学び、決して虐待のない様努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員は勉強会で学び、管理者は研修を受け必要な人には活用し、また、活用できるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際十分な説明をし、納得された上で印を押して頂き、契約を結んでいます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族より気兼ねなく、意見が聞けるよう意見箱を設置しています。また、運営推進会議に参加を呼びかけており、会議のときに意見や、要望をお伺いしています。	意見箱を設置しているが意見や要望があるときは家族は直接言ってくれる。月に1回は家族がみえるので家族の希望を中心に考え、利用者の様子を伝える中で意見や要望を伺うようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	申し送り時やヘルパー会(職員会議)時に出た意見や提案は管理者、法人代表者へ報告している。その他随時相談し運営に反映している。	職員会議の前に工夫することや改善点など、話し合いたいことを職員一人ひとりから出してもらい、闊達な意見交換を行い運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	雇用時に出来るだけ勤務しやすいよう、また、やりがいを持って勤務できるよう話を聞くようにし、雇用後も働きやすいよう環境や、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	管理者、職員がよりよいケアを提供できるよう、継続研修を年間1回以上受ける事を推進しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域のグループホームとの管理者連絡会に参加している。職員が交流する機会を持ちサービスの質を高められるようにしていきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人の安心と、関係づくりで一番大切な時期ですので、ご本人の思い、ご家族のお話をよくお聞きし、ご本人の思いを受け止めていけるよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の悩み、不安に思っていることをよくお聞きし、少しでも不安が和らぐよう、また、安心して入所して頂けるよう努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族、ご本人の事情をよくお聞きし、当施設内で出来るサービスを検討し、ご本人、ご家族に必要なサービスを第一に他所のサービス利用も含めた対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ホームの理念にあるように、職員、ご本人が共に喜びをもって過ごし、お互いにたすけあい、お互いに感謝し合いながら日々を大切に過ごせるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人と、ご家族の生活歴や、事情をよく理解して、よりよい関係が続くよう努めています。ご家族との連絡を密に取り、報告や相談をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	原則、月々のお支払いはホームでして頂く事になっており、月に1回は来て頂けるよう支援しています。また、ホームでの行事や、お花見などご家族の方に連絡し、一緒に楽しめる機会を設けています。	家族との関係継続を常に考えており、外出や外泊などは家族と話し合い協力して、利用者の希望に添えるよう支援している。絵手紙を月2回習っており、その都度家族に送り家族に喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	それぞれの生活が違ってきたので、そのことを理解し、共に生活する者同士孤立することなく、関わり合いをもてるよう支援しています。事業所理念の下に陽気暮らしの実現に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後もご相談等に応じています。また解約時にその旨をお伝えすることで退所後もフォローできるよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式のシートを使用し、利用者本人及びご家族から聞き取りを行って、現状に対する思いや要望、希望をまとめ検討しています。半年毎に更新し見直しています	お茶の時、食事の時は利用者とゆっくり関わることが出来、利用者の発した言葉は大切に拾い、一人ひとりのノートに書き留めている。「利用者は自分から発することが少ないので見つけに行く」という姿勢で、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人、家族、関係者から情報を聞き把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	職員が日々の生活の中で観察すると共に、必要に応じて本人や家族と話し現状の把握に努め、毎日の引継ぎ時、及びヘルパー会の時に情報を共有し適切なケアが出来るよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	担当者会議を2ヶ月に1回は開催し、モニタリングを少なくとも半年毎に行うと共に、毎日の引継ぎ時やヘルパー会で各利用者の希望や思いに即した現状の課題とケアのあり方について話合っています。	利用者の思いをくみ取り家族と連絡を取り合っって計画を作成し、常にモニタリングし担当者会議で話し合い、「食器洗いが出来る」など具体的な現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者の経過記録と申し送りノートで情報を共有し、ケアへの実践に生かしたそれを計画書の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	各利用者の状況とニーズをよく見極め必要な場合には他サービスも含めて本人、家族により良いサービスが出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	普段から地域の方に絵手紙を教えてもらい、地域の文化祭に出品させて頂いている。季節の行事には地域のボランティアの音楽や催し物を活用し楽しんでます		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医は、ご利用者、ご家族の希望に添えるよう支援しています。また地域の医師に事業所の主治医を勤めていただき定期的な往診や、相談のほか、緊急時に来ていただけることをご利用者、ご家族に安心していただけています。	家族の希望に添った主治医となっており、協力医とは往診や相談、緊急時の対応など連携がとれている。外科や眼科など専門には家族が連れて行き情報は家族と共有して、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	かかりつけの看護師に相談等、連絡を取り合い、状況に合わせた対応が出来るよう努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は病院関係者、ご家族と連絡を取り合い情報の交換等、ご利用者、ご家族が安心して治療できるように努めています。また協力医療機関にはそうした場合に備えて対応して頂けるよう関係づくりをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化に対し、その都度本人や家族に報告と相談を行います。必要に応じて併設する施設や医療機関を利用することで対応しています。	重度になった場合は併設の施設や医療機関と連携し、事業所の出来ることを説明し、その都度家族と相談して希望に添って対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設内で勉強会を行うと共に毎日の引継ぎ時やヘルパー会等で注意点や対応例を話し合い備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	事業所内での訓練、シュミレーションの他、運営推進会議で火災の他起こりうる自然災害と災害時の地域の協力体制について話し合いをもち、災害時には協力していただけることとなった。	まちづくり委員会の中で何かあれば組合の方が事業所につけられる体制が出来た。近隣の施設とも協力体制が出来ており、連携し、訓練に参加し合うなど助け合っている。避難、通報、消火など事業所内の訓練は利用者と一緒に頻回に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご利用者を尊重し、一人ひとりに合った言葉かけや対応ができるよう努めています。また誇りやプライバシーを損ねないケアが出来るようヘルパー会や、日常の申し送り時に意見を出し、職員間で共有できるよう努めています。	研修は年間計画の中で行われており、内容については報告し職員で共有できている。特に利用者に合わせて言葉かけに配慮し利用者を尊重してケアできるよう取り組んでいる。声掛けは優しく笑顔でと意識している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉かけなどで、ご本人の思いや、希望を引き出せるよう工夫し働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	これまでの暮らしを把握し、できるだけ一人ひとりの生活リズム、希望に沿って、その人らしく暮らせるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その人らしさを尊重し、言葉かけや洋服選びなど支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食べる事が困難にならないよう、調理や食器を一人ひとりに合わせています。また皮むきや、食器拭き、片付けをそれぞれができることを職員と一緒にしています。季節や行事に合わせて五平餅、おはぎを皆で作ったり、流しそうめんをしたりしています。	行事や季節に合わせて、おはぎや五平餅、お月見団子、お節など工夫し、お誕生日には希望メニューを作り、時には外食にも出かけている。果物の皮を剥いたり切ったり、食器を洗ったり、利用者の出来ることをやって食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	各利用者の趣向も考慮しながら必要な水分や栄養を確保できるよう心がけると共に、食事の状況を引き継ぎ時報告するようになっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	いつまでも美味しく食事が出来るよう、言葉かけや見守りをしています。状況によって介助をし、清潔、機能維持に努めています。また必要に応じては歯科を利用して頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	日中は全てのご利用者がトイレを使用しています。それぞれの排泄パターンを職員全員が把握し、失敗が少なくなるよう言葉がけやケアをしています。夜間は転倒の危険のある方はポータブルトイレを使用しています。	個々の排泄状況を記録し引継ぎで共有し、体調や変化に合わせてケアしている。トイレ誘導しながら今できる現状が維持できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	職員間で学ぶ機会を持ち、献立、個々に応じた食事形態の工夫、水分補給、体操など自然に排便できるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	週4日お風呂を準備しています。ご本人のタイミングや、体調に合わせて入れるよう支援しています。	転倒リスクの高い利用者や着替えを嫌がる利用者など、それぞれに合わせて見守りや介助で、利用者の希望に添えるよう支援し入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活のリズム、状況に応じ、寝具を含めその人が気持ちよく休息、睡眠をとれるよう、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	医師や、薬局からの説明、資料をもとに個々にファイルを作成している。職員全員が把握し、また学ぶ機会を持ち理解に努めている。変化がある場合は医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯、掃除、食事の準備等の中で出来ることをして頂き、生活の張り合いや共同生活の役割を持って過ごして頂けるよう努めています。空いた時間には塗り絵や日記を書いたりしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気を見てお散歩に出かけたり野外でお茶を飲んだりしています。買い物や帰宅などについては家族と相談して行っています。	暖かい日には毎日散歩に出たり、ウッドデッキや庭で日向ぼっこやお茶を飲むなど季節に合わせて楽しみ、お花見やドライブ、動物園に行くなど計画して出かけている。外出や外泊は家族と相談して出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	職員はご本人がお金を持つことの大切さを理解しています。ご本人や、ご家族の意向、現状を話し合い本人の希望と認知症状にあわせて個別に支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の取り次ぎを希望された場合には対応している。また、絵手紙を描きご家族や、友人に送る支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご利用者の歩行、寒くない場所、外の光がまぶしくないよう一人ひとりが居心地のよい席の配置であるよう心がけています。また、庭には四季折々に花や樹木が彩り季節が楽しめます。	温度や湿度の管理には配慮している。お雛様を飾ったり絵手紙を飾ったり、花を飾ったりして季節を取り入れている。席の配置にも配慮し利用者が穏やかに過ごせるようにしている。食堂からウッドデッキにすぐに出られ楽しい場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人でもそれぞれが過ごせるよう個室を設けて支援しています。また、ホールではテーブルの指定の席とテレビ前の自由席を用意しています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	それぞれに合った居室であるよう配慮しています。また、好みのものや、ご自分で作った作品を飾ったり、使い慣れた物をつかい、居心地よく過ごせるよう心がけています	タンスやテレビなどを持込、家族と相談して自分の部屋を作り、テレビを見たり本を読んだりそれぞれに落ち着いて過ごしている。毎日職員と一緒に掃除をしており清潔で気持ち良い部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	部屋割りも含め、一人ひとりが安心して安全に過ごせるよう工夫しています。また、レイアウトを工夫しご本人の自立を支援しています。		

(様式4)

事業所名 グループホームいこいの里

目標達成計画

作成日: 平成 30年 3月 16日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	36	3箇所あるトイレのうち2箇所トイレの扉がカーテン式のものになっている。個人のプライバシーの観点から利用する本人が安心してトイレ使用できないのではないかと	トイレを使用するとき安心して利用できるように改善する	トイレの扉を木製のものに交換し安心とプライバシーを確保する	1ヶ月
2					
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。
複数のユニットを有する事業所において、事業所全体でユニットごとの目標の総括を行う場合は、本様式を1つ作成して下さい。